

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

杉 田 光

○長野県松本市

「街なみ環境整備事業」及び「歩いてみたい城下町整備事業」について

【所 見】

松本市が、中心市街地のまちづくりにおいて、最重要施策として掲げていることは、「健康寿命延伸都市・松本」であり、「行政」「市民」「産・学」が連携して取り組んでいるとのことである。また、現松本市長は医師であるということで、特に力を入れているように感じ受けた。その重要施策実施の一つとして、「歩いてみたい城下町整備事業」がある。

平成22年度からスタートした本事業は、中心市街地を5地区に分け、それぞれの地区の特徴を活かし、整備を行っている。松本城は国宝としてあまりにも有名であり、歴史に裏打ちされた城下町は大変風情のある雰囲気であった。特に、中町地区の街並みは蔵造で統一されており、散策するにあたって魅力ある街並みであった。この事業においては、それぞれ5つの地区に、まちづくり推進協議会が組織され、連合会も組織されており、「まちづくり協定」が締結されているという点で市民が一体となった本事業であると深く感心した。こういった都市整備事業では、市民からの理解と協力を頂くにおいて、難航する場合もあることが多いが、市民全体がこの事業に取り組んでいるということで、市長を中心とした執行部のリーダーシップと自分の町を更に魅力あるものにしようと行動する市民力に対し大変驚かされた。

本市においても、スマートウェルネスシティプロジェクトを推進しようと取り組んでいる。目的の一つとして、健康寿命を延伸するということがある。健康で幸せな生活を営む上で大切になる「外に出て歩きたくなる街づくり」を進めるということである。まさに、歩きたくなる都市整備事業が肝要である。本市の各地域では、区画整理事業における課題やシャッター通りと揶揄される中心市街地活性化等の諸課題を抱えている。限られた財源の中で、最も効果的な施策を展開していかなければならぬ。その上で最も重要なことであると感じていることは、松本市のように、市民に対し目的をしっかりと理解してもらえよう行政が説得力を持つこと、リーダーシップを発揮することであり、市民それぞれが意識を高め、市民力を発揮することであると感じた。行政と市民が一体とならなければ、どんなに予算を懸けようとも、魅力ある街・歩きたくなる街を創出すること

は困難であると考えるからである。本市の諸課題を早期に解決するためにも、市民の意識を前向きに高揚させる、行政の丁寧なリーダーシップの重要性を深く感じた視察であった。

○長野県安曇野市

「安曇野市観光振興ビジョン」について

【所見】

安曇野市の市民性として山紫水明な故郷に対し深い思い入れ・郷土愛があるという話を市職員の方から説明を受けた。この郷土愛を今までよりもさらに醸造し、産業に転換していくことが重要な施策であると考え、中核に据え、取り組んでいくことが「安曇野暮らしツーリズム」という理念であり、「安曇野市観光振興ビジョン」であるということである。本市においても、国宝鑱阿寺・足利学校等の歴史遺産をどのように観光に反映させるか喫緊の課題である。また、市民の郷土愛をどのようにして反映していくかも重要な課題である。

安曇野市の観光振興理念の中で感心させられた部分は、来訪者と観光関連事業者のつながりに偏っていた従来有形から、観光関連事業者や来訪者と市民や地場産業をつなげることに重きを置き、地場の産業として観光が成り立つ仕組みを作り上げようとする取り組みである。地場の産業が、観光関連事業者とともに利益を上げれば、より連携が促進され、安曇野市民と来訪者が交流できれば、より付加価値のある観光になり、観光振興戦略が前進するということである。この「安曇野観光振興ビジョン」を作成するにあたって、市民・行政・関連団体・観光関連事業者それぞれに、実践して頂きたい取り組みを解りやすく伝え、それぞれの取り組みを全体としてまとめ上げ、実績に反映している点も大変驚かされるところである。安曇野市は、大手広告代理店からアドバイスを頂き観光戦略ビジョンを進めていると聞いた。大変効率的で効果的な取り組みであり洗練された内容である。

本市もシティプロモーション・観光振興を中心施策として進める以上、広告代理店との連携が今まで以上に重要になると痛感したが、継続して取り組んでいく上で、費用にも注視しなければならないと感じる部分もあった。